

# ZOOMの内容

---

小泉彰久

# 認知症患者の過量服用を どの様に防ぐか

---

## 方法

- ・ 薬を服用のタイミングで手渡しをする  
→患者宅に訪問した職種の人が都度、対応する
- ・ 用法は、1日1回がベスト

## 患者自身が服用しなければいけない場合

- ・ 日めくりカレンダーを導入する
- ・ 訪問を週1ペースで7日間のみ薬を患者宅に置いてくる
- ・ 薬を飲んで残る空の物を入れる専用の容器を用意し、  
そこに入れてもらう

# ケアマネや他職種との情報共有

---

- 担当者会議には、必ず出席して顔が見える状態にする
  - 顔が見れる関係であることが頼み事等を、しやすくする
- 他職種の職業を理解すること。
  - 誰に何を頼むか、わかるために必要
- 患者宅に連絡ノートがある場合
  - 連絡ようノート:各職種が患者宅で行った事や患者の様子が書かれているノート
  - 必ず読んでこちらもノートに記載する事
- 緊急で連絡が必要な場合は、訪問している最中に電話する

# 緊急で他職種に連絡をとった事例

---

## 患者背景

ほぼ寝たきり

歩行可能域は、トイレや台所のみ

食事量は、おにぎり1~3個のみ

## 薬剤情報

ラコールを分2で服用

最近、分3→分2に変更された

## 訪問中

ラコールの数が合わない。

過去に医療従事者が保管場所を動かした事あり。

# 緊急で他職種に連絡をとった事例

---

他職種へ  
緊急連絡      ヘルパーや訪問看護師に確認の電話をとるが動かし  
ていないとの事

---

本人に  
確認              分3服用していたとのこと

---

判断した  
こと              直近の血糖は問題なく推移しており、栄養自体が  
少ないと感じていたため医師にその場で電話せず

---

その後              患者に説明不足であったと謝罪  
分2服用を伝えて薬局に帰り、ドクターに電話で報告

---

# 他職種の情報のはずれ

---

- お互い人なので「言った言わない」が始まらない様に重要な事は何度でも確認する必要あり
- CADDレガシー(末期がんで使用する24時間持続注が可能なポンプ)を使用時、薬剤のセットや機械の設定は看護師が行う。しかし、看護師の要望によっては薬剤師が行う場面もあった。
- 看護師側は、機械に精通している薬剤師がやるべきとの思いと薬剤師側は法律上はできないとの思いがあり、お互いに「できる行為の範囲」を把握する必要がある